

1 リム形状は19&20インチともにステップアップを採用。インセット±0とすることで超リアルム体積となった。オリジナルにはないピアスボルト搭載により3ピースをアピール。カラーはブラックオーダーした。ホイスク深掘り一致するフラットだが、実は軽やかなクランプを描くことでマイドキのニュアンスを醸し出す。

2 ディスクセンターに重心を置き、高密度メッシュ形状でクラシカルムードを演出。まさにレーカーの究極的適用だ。

Gran Seeker CCX
7.5Jx19インチ-12.5Jx20インチ
¥77,000~99,000+税

WORK Gran Seeker CCX

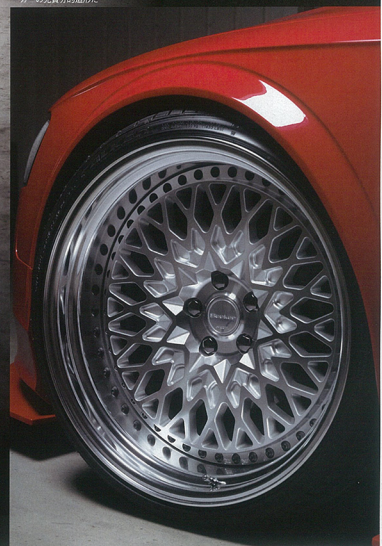
× Build AUDI A5

ひとつ上のクラスに最適な オールドスクールデザイン

ワークの大ヒットブランド「シーカー」にアッパークラス向けの新シリーズ「グランシーカー」が追加された。オリジナル譲りのオーセンティックなシルエントに大口径らしい迫力が加わった、いま最注目一本だ!

写真&文 ● 浦野浩之
問 ● ワーク 東日本コールセンター TEL.048-688-7655 / 西日本コールセンター TEL.06-6746-2859
中日本コールセンター TEL.052-777-4512 www.work-wheels.co.jp

↑チャリキダダンバー車高調のオリジナルセットアップによるドシャックなアタリ。前後11×20±0サイズ(リアのみ+20mmスベーパー)を装着



コアなユーザー層のニッチな声にも応える、本輸入車や国産車、さらにはジャッパルの壁も叩き破るこの数少ないトッチも伸ばしたフラットのリムがシーカーだと思っ、設定サイズが19、18インチ小径なのに加え、従来のシャコタンカスタムにもハマるオールドスクールなデザインもあいて、コルサやリリ、あつりのVW勢のほか、BMWニやアルファロメオといった激走キョウ走まで積極的に装着車を拡大、それこそ昨年のスーパーカー二ハルでもアノコトにシーカー履きがあり、確実な時代をキヤッテしているのなわわこきだ。

今回紹介するのはシーカーの兄弟分なるグランシーカーシリーズだ。グランには、雄大なとか、社大などといった意味が込められており、その名の通りメタリックをOD、Eセグメントに据えたアップバーシリーズとなる。対象車種が太きまったことでサイズも変更され、ファーストモデルのOCは19、20インチがマンアップされている。

本作は、でも、シーカーに設定されているGXというメカに設定されているGXに開発されているのだが、キヤンパサイズ拡大に合わせ、意匠を全面的に見直し、より普遍的で

目の細かなメッシュデザインとなつているのが特徴だ。さらにホイール化したことでオリジナルにはなかったピアスボルトが加わり、持味であるグランカルの雰囲気がさらに深まった。この見所のひとつ、そのピアスボルト自体もP-Tラントというランカルのモノを使用し、カラーもブラックやゴールドも選択が可能といことわりだ。また、クラシカルな雰囲気に合わせてカットクリアルやフラットの2色を標準とするが、ワーク独自のカスタムオーダープランやカリスム、カリスムクリアのほか、設定の1車にも装着が可能な特別PCにも対応。人とは過敏性で足元を飾りたいというコアなユーザー層のニッチな声にも応える深いモデルとなっている。今回撮影したビルド製作ハウディ(A5)の詳細は次回ページへ、まさにトヨタの表現(ビジュアル)をフルフレンシーと前足に3ピースモデルらしい前後11×20をインストした女性タイプが自慢だ。やっつてくることは、XJ11がコアは極めくクリーに仕上げられており、これら各種オプションを標準色(カットクリアル)のOXの組み合わせで、ごまかす様にはない、正直並のホイールではできないと、思っ。